

平成 27 年(2015 年)度事業計画

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

平成 27 年度は財政的に厳しい状況が継続すると認識し、引き続き会員の拡大や各種イベントへの参加増など収入増に注力しつつ、会員へのサービス向上に努めてゆく。特に、本年度は改革に向け下記の 4 点の活動を重点的に進める。

学会活動のポイント

- 1) 理事会主導性強化のため副会長担務を明確化。委員会相互の連携および会員が参加し易い学会活動を目指す、など横断的な改革の推進
- 2) 新分野創出を担う専門研究会の活動を会員の皆様に周知していただくために、学会誌への論文投稿や学術講演会でのセッションを設置
- 3) 学術講演会の公募シンポジウムを充実させ、より幅広い視点から議論できる場の発展
- 4) ホームページ、フェイスブック、メールマガジンなど電子媒体による情報発信の充実

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催 (定款 4 条 1 号)

1. 1 学術講演会

磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として学術講演会を年度内に 1 回開催する。

本年度は平成 27 年 9 月 8 日 (火) から 11 日 (金) まで名古屋大学 (愛知県名古屋市) において第 39 回日本磁気学会学術講演会を開催する。本年度の学術講演会は、これまでと同様に国内外の新しい磁気に関する研究成果をもれなく集め、約 80 セッションを設け約 500 篇の講演論文を集めて行う予定。

1. 1. 1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

第 39 回日本磁気学会学術講演会に開催予定のシンポジウムを引き続き公募制とする。これにより学会員の議論のさらなる活性化をはかる。

1. 1. 2 学術講演会の概要集のウェブ配信化

第 39 回日本磁気学会学術講演会の概要集をウェブ配信化する。並行して、従来の概要集冊子の形でも別料金にて事前受付をし、従来のサービスも一部継続する。これらにより学会員の利便性向上をはかる。

1. 1. 3 学術講演会の賛助会員のウェブ登録の実施

第 39 回日本磁気学会学術講演会より賛助会員も学術講演会ホームページから事前登録を行えるようにする。賛助会員のウェブ登録の実施は、賛助会員の利便性向上だけでなく、受付業務の簡素化や学術講演会参加者の増加が期待できる。

1. 2 研究会

新しく、また興味深い磁気およびその応用を主題とした研究会を、年に 6 回を目安として定期的に開催する。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催期日	研究会の主題（仮題）
第202回	平成27年 5月	エネルギーに関連する磁性材料の現状とその展開
第203回	平成27年 7月	大型プロジェクトによる磁気・スピン新機能デバイス研究開発の最前線
第204回	平成27年11月	磁気イメージングチュートリアル
第205回	平成27年12月	カイラル磁性
第206回	平成28年 1月	発電材料
第207回	平成28年 3月	(磁気分離・リサイクル関連のテーマで3月末まで審議中)

1. 3 講習会、公開講座など

- ・ 「日本磁気学会初等磁気工学講座」と「日本磁気学会サマースクール」を開催する。
- ・ 青少年を対象に、磁気に関する啓蒙的講座を年2回開催する。

1. 4 専門研究会

ナノマグネティックス専門研究会、磁気工学専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、スピンエレクトロニクス専門研究会、強磁場応用専門研究会、Energy Magnetism 専門研究会、超高感度マイクロ磁気センサ専門研究会をそれぞれ年数回開催する。

2. 学会誌その他の図書の刊行（定款4条2号）

2. 1 学会誌および学会報の発行

平成27年度内に学会誌「Journal of the Magnetism Society of Japan」を、Vol.39, No.3（通巻第274号）からVol.40, No.2（通巻第279号）まで隔月で年度内6回発行、学会報「まぐね」をVol.10, No.2（通巻第87号）よりVol.11, No.1（通巻第92号）まで隔月で年度内6回発行する。「Journal of the Magnetism Society of Japan」は英語の原著論文、レビュー論文など磁気の研究を掲載する。「まぐね」は特集記事を中心に解説、トピックス、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術などを掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。

2. 2 出版活動の推進

企画委員会、編集委員会が連携して総務委員会主導のもと出版WGを組織し、出版事業を推進する。平成27年度は、教科書シリーズ1巻、参考書シリーズ2巻、啓発書シリーズ1巻の発行を目指して原稿の収集、刊行の手続きを進める。また、学会事業として理事会主導による磁気便覧の刊行を支援する。

2. 3 Journal of the Magnetism Society of Japan の ISI 取得に向けた取り組み

2016年にJournal of the Magnetism Society of JapanのISI申請を目指し、定常的な論文の収集に努めるとともに、レビュー論文、国際会議プロシーディングスを積極的に発行し、活性化をはかる。論文数、引用数を増やすことを目的として以下の取り組みを実施する。

- ・ **Review 論文の充実**
理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼し、引用を促す。
委員会より依頼したReview論文には投稿料を支払う。
- ・ **投稿論文の充実**
分野ごとの特集を設け、記事を集める。
専門委員会からの投稿を募る。

投稿論文 100 本を目標に理事会の協力をあおぎ論文緊急対策をおこなう。

・ 引用数の拡大

電子ジャーナルの OPENACCEESS を継続する。

大きなイベントにタイミングを合わせた引用依頼を継続する。

2 年以内に発行された論文の著者と指導教員に最低 2 回の引用をおこなうよう個別に依頼する。

2. 4 まぐね記事の電子化

会員の利便性向上を目的として「まぐね」全記事を電子化する。

委員会内に電子化担当を設け、著作権規程の整備や運用をおこなう。

総務委員会、財務委員会、理事会とともに On-line 会員など新しい会員の検討を進める。

3. 研究および調査の実施（定款 4 条 3 号）

3. 1 電子化の推進

会員サービスの拡大のための技術情報サービスやメールマガジンの充実、フェイスブックの活用をはかる。

3. 2 会員獲得のための広報活動強化

各種会合、講演会、展示会などにおける学会広報活動を強化し、ポスターや入会案内パンフレットなどによる会員入会勧誘を積極的に推進する。

3. 3 ホームページの充実

バナー利用の宣伝を行う。また、利便性能向上のために、利用状況を解析し磁気学会ホームページの構成を修正するとともに、企画委員会の協力を得て Q&A などのコンテンツの充実や広告掲載などにより広告収入の増加を図る。

4. 研究の奨励および研究業績の表彰（定款 4 条 4 号）

本年度は学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞（内山賞）、学生講演賞（桜井講演賞）、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款 4 条 5 号）

米国電気電子学会（IEEE）の Magnetics Society、韓国磁気学会（KMS）、台湾磁気技術協会（TAMT）、ロシア磁気学会および中国、英国、ドイツ、フランス等、国内外の関連学会団体と相互協力および情報交換を行う。国際化委員会では、Asian Union of Magnetics Societies（AUMS）（日本、韓国、中国、台湾、インド）を母体に、アジアでの協調体制確立に努める。AUMS Council Meeting に参加して、AUMS に関連する議案を審議する。

II 会議

この年度に開催する主要な会議である総会、理事会および顧問会は次により実施する。

1. 総会

本年度の通常総会は平成 27 年 5 月 22 日（金）に開催し、平成 26 年度事業報告および収支決算、平成 27 年度事業計画および収支予算などについて審議・議決する。

2. 理事会

本年度の理事会は、原則として6回開催し、総会および顧問会への提出議案の作成、総会での決定事項の実施、会務の整備、各事業の充実等について審議する。

3. 顧問会

学術講演会開催時に開催し、学会の諸活動に関して会長および理事会に意見を具申する。

4. その他

名誉会員および賛助会員の学会活動に対する意見を集めるため、名誉会員懇談会および賛助会員懇談会をそれぞれ年1回開催する。

III 公益法人運営体制の確立について

日本磁気学会の継続的発展を図るために財務体質の改善および会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。本年度の各委員会活動ポイントは下記の通り。

活動のポイント

総務委員会：事務効率向上および低コスト化の推進

財務委員会：財務状況の逐次把握および健全化の推進

企画委員会：賛助会員を含め会員の参加し易い研究会、学術講演会の開催

編集委員会：会誌“まぐね”の電子化の推進

広報委員会：電子媒体による広報活動の充実

国際化委員会：海外学協会との連携強化